

きんせい
近世

今回は、展示されている資料の中から3つにしぼってご説明いたします。

近世とは、安土桃山・江戸時代をさします。この時代の主な展示資料には、^{なかむらじょうかちず}中村城下地図(江戸時代)や^{ほうとくき}報徳記(江戸時代)などがあります。江戸時代は、^{そうまなかむらはん}相馬中村藩の時代です。中村藩は、1611(慶長16)年の宇多郡中村城に移り本格的に始まりました。^{りょうち}領地は、宇多郡・行方郡・標葉郡の3郡で6^{まんこく}万石です。それは江戸時代が終わるまで、260余年つづきました。

Q 徳川家康は、江戸幕府の基礎をかためるために、どのようなことを行ったのだろうか？

Q 天明天保のききんで相馬中村藩ではどのくらい米が取れなくなったのでしょうか？



^{なかむらじょうかちず}中村城下地図 1702年

^{なかむらじょうかちず}中村城下地図(市指定文化財) …

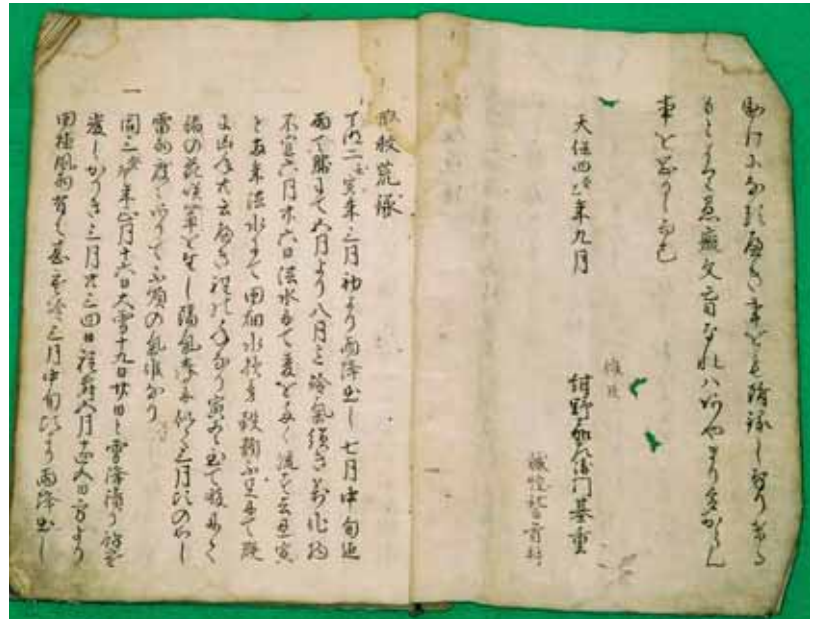
江戸時代は、徳川家康が江戸に幕府を開き、約260年間、平和な時代がつ

づきました。江戸時代の初め1611(慶長16)年、相馬では、^{としたね}相馬利胤が^{ちくじょう}中村城を築城して^{おだかじょう}小高城から移り、藩の政治の中心となりました。この城の別名は、^{ばりょうじょう}馬陵城とも呼ばれています。本資料は、^{じょうかく}城郭の^{はいち}配置や城下町の様子を知る上で貴重な資料です。城絵図の製作目的は、4つにわけられます。その第1は城郭の設計です。そのため^{くるわ}郭や^{ぼり}濠、^{どるい}土塁の配置を描いた図面が作られ、「^{なわばりず}縄張図(なわばりず)」と呼ばれました。第2は江戸幕府がその支配力を高めるためです。第3は、城の修理を幕府に願い出するためです。第4は戦術などの学問を勉強するためです。

てんめいきゅうこうろく

天明救荒録…江戸時代中ごろか

らききんがしばしばおこりました。ききんは、1度おきると2年3年と被害がつづきます。相馬中村藩でも、天明・天保のききんで農村が疲へいし、藩の財政が窮ぼうしました。天明救荒録は、1783(天明3)年から1786年にかけて、相馬地方をおそつ



た天明のききんの内容をくわしく記録した資料です。

天明救荒録

ほうとくき

報徳記…中村藩では、たびかさなるききんで疲弊した農村を立て直し、藩財政を再建するため

に、二宮尊徳の教えに基づく「興国安民法」を導入しました。「興国安民法」は、一般には「二宮仕

法」あるいは「報徳仕法」などと

いわれ、相馬では「御仕法」と

いわれています。報徳記は、

二宮尊徳の高弟で相馬中村藩士の富田高慶(1814(文化 11)

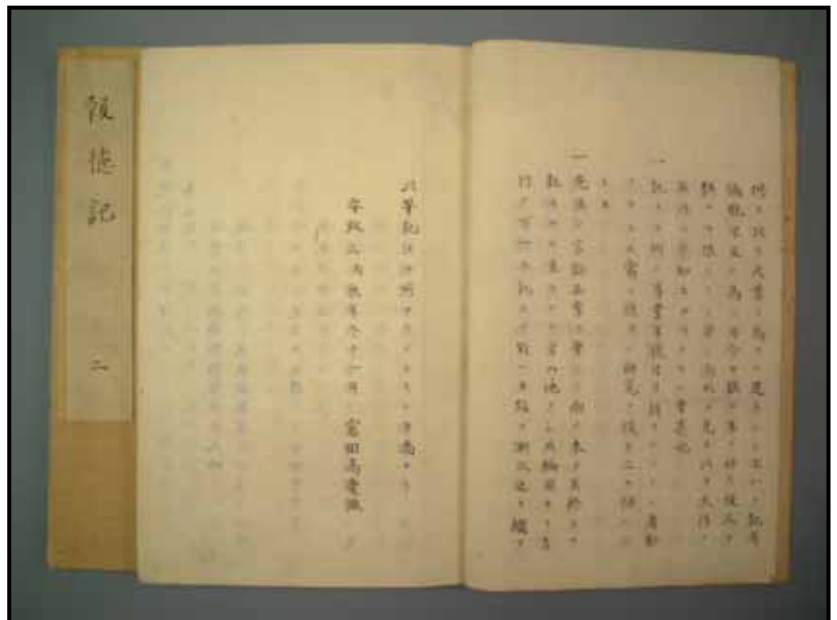
~1890(明治 23))が著した尊徳の伝記です。1856(安政3)

年10月の尊徳死後に書き上げ、11月2日に成稿、のち8

巻に編成しました。1880(明治

13)年に明治天皇に献上され、1883(明治 16)年宮内省、1885(明治 18)年農商務省、ついで大日

本農会から出版され広く読まれました。



ほうとくき
報徳記